

昭和電工株式会社
取締役社長 安西正夫

吊詞

弔詞

本日茲に昭和電工株式会社

社葬の禮を以て取締役会長

故佐竹次郎氏の清らかなる

靈を御送り致しますに當りま

て会社を代表して謹んで

哀悼の言葉を捧げたいと存

じます

顧れば昭和電工が初め

佐竹会長と取締役とを以て

迎へたのは昭和二十七年の

とぞありしすの越えりて
八年九月には社長に推戴し
て社運の興隆と社風の刷新を
俵げて佐竹社長の統率に待
つゝありしなり

爾來五年四月に及ぶ社長とし
ての在任中は文字通り身を

以て精勵恪勤の範と垂れ衆を

率ひて温容春風の中

公私の別は嚴然として

之ともせず社業をすすむる

に當つては正道を踏んで決して

奇道もせず常に正々堂々

たる事業家の大道と寸分の狂

もなく一筋に調歩かつぽされたのが

ありまはりの馬の風格は
まことに松共後進の深く私淑
するところであらう

本年一月突如として健康上
の理由により社長の地位を退か
れられたが其の後の会長として大
勢高所より新々後輩に指導
に當られ終始漸多^かくなら
し勤めにならうて居られたのが
ありまが天はよの良き人長
壽と評やう今遠から

は中一會長の昇天の悲報に

橋

を失なうた如き悲しみと寂しさ

本社といわず工場といわず全会

社と一様に包み込んでくださった感が
ありき

出来に於てこの悲報に接し直ちに
大平洋を飛んだ私の胸中へ
縋り返して憶い浮べられたこと

昭和二十八年九月佐竹会長と私が
相携^{たすけあ}りて当社経営の任を受けた
日のことである

時故人が私の手をとって申された
こと、私は素人でありながら社長と
引受けた以上はあなたと一心同体と

なうて昭和電工の隆盛のために全
力をつくろいたい私は大東亜戦
争には陸軍の應召将校として
ニューギニアの戦火と潜^{ひそ}り 五年

向ふ生死の境に入——たニヤ
ギニヤの戦線から生還したものの
傍へ三割に満たない——
みれど自分はまよいてしるのが儲
けものだニユーギニヤで死んだと思
えばなんらでも我慢が出来
やろうでいなか」と語られた
のでありん

佐竹さんあなたは實の立派に
最後までその誓いを果さん

——た私は貴方の真の

真情の伝言がこゝら太平洋の

星月夜を死んで冬ったのが

あ——あ

あなただけ社長に在任中に精神
的には昭和電工の誇り高い社風
の再建と愛社心の涵養に大々く
足跡を残された
事業面では在来の事業の発展
の外に石油化学に新しい分野を
拓かれたこれらの精神面
の事業面のご共は会長社の歴史
に一つのエピソードを画するものと
して特筆されるべきだと考えます
惟うに故佐竹会長に實に多く
の美点の持ち主であられた
野球や釣りを愛好する明朗
なスポーツマン筆貨の友面に正し
い禮儀を失わぬ本當の紳士

であつた。——た自らを

律して、謹嚴であり乍ら因縁

部ぶにか対しては、何なに時ときも厚い

温情を忘れず、正邪せいじやと峻別しんべつする

鋭い良心となつた。——い

人間味で包んで居る。——た

さうした沢山の美点の由つて

来る。——はあなたが世にも稀

なる誠まこと心こころの人であつた。——と

に帰すると私は、**車窓**——いた

今——あなたが強い責

任感、精勵、恪勤、と涙なみだ——

人情味も旺盛な愛社心も、**その**

根源は結局あなたが純良無比

な誠まこと心こころの人であつた。——とに生な成せいし

て居る人

本年一月あなたにあらゆる慰
留と押し切つて後進の私に無理
槍に社長の仕事と譲られたり
ありませうかと思はば
あなたがその頃既く仰自分の
命一教と縁感して居られた
ことがなつかしくて私が
社長としてあらば交軌道に
乗るやう後楯となつて見守つて
やうなものであるあなたに
よろしいのでなかつたかと今更
私は感激に身も震えろ思ひが
致すのでありあなたの子の深謀其
の温情悉く是赤誠の所産で

あつたあなたの出進の
の芸術の

は言ったのでありすが昭和電工
まことに良き時に良き人の献

身を受けけて会社発展の基礎を

培かしたたのでありすが家の
人を失うことが又餘りに早

かったことを私は返す返すも悔
まれてならぬ次第であります

然——乍ら進もうとは

残された私共が故人の悲願を継
ぎ心を協せ力を戮し一層社業

躍進の實を挙げて総合化学工

業会社と——の大成を期す

——今こそ佐竹会長の瞑

と安から一のこと深く心に植^{たく}
い致すものでござります。

希^{こゝろがわ}くば高邁なる在天の靈^{たま}よ

髻^{ほう}髻^ぶ——て永々照覧を

垂れ給わんことを

昭和三十四年十月二十六日

昭和電工株式会社

取締役社長 安西正夫